

李朝實錄

第四十二冊

景宗實錄

景宗修正實錄

英祖實錄 第一

學習院東洋文化研究所刊

李朝實錄第四十二冊奧付

昭和四十年五月二十五日

東京都荒川區日暮里町六ノ五〇〇

都印刷株式會社印刷

東京都豐島區目白町一〇五七

學習院東洋文化研究所刊行

編纂刊行責任者 末松保和



景宗實錄、景宗修正實錄解説

〔一〕 李朝の第二十代の王景宗は、諱は昉、字は輝瑞、肅宗の第一男、肅宗十四年戊辰（一六八八）十月二十八日丁卯、昌慶宮に生れた。十六年庚午（一六九〇）王世子に封ぜられ、四十三年丁酉（一七一七）代理、四十六年庚子（一七二〇）六月十三日戊申、慶熙宮に即位、在位四年、甲辰（一七二四）八月二十五日乙未、昌慶宮に薨じた。春秋三十七。母は玉山府大嬪張氏（玉山、張焯の女）。妃は端懿王后沈氏（青松、沈浩の女）。繼妃は宣懿王后魚氏（咸從、魚有龜の女）である。

〔二〕 この王代の實錄は、英祖二年（一七二六）八月に編修が開始され、八年（一七三二）二月に印刷を完了した。十五卷、七冊。

〔三〕 景宗朝（四年二カ月）は、肅宗朝の延長として、老論・少論の抗争がはげしく、しかも少論の謀略が功を奏して、一時的ながら、老論に対する一大打撃を與え得た時であった。少論の勝利は、この實錄の編修開始早々の英祖三年（一七二七）七月のそれをもって、最も大なるものとす。けれども翌々年（一七二九）には、早くも敗退した。當時は老論・少論の攻防すでにその頂点をきわめ、敵味方ともに党争に疲れはてた結果として、各党併進が提唱され、實現されつつあった際である。かかる形勢の中で編修されたこの實錄は、李堦・趙文命を總裁とし、李德壽・徐命均らが編修にあたったが、党派の傾斜はなまぬがれなかった。

〔四〕 英祖八年（一七三二）二月に景宗實錄が出来上ったのち十年、英祖十七年（一七四二）十月、党派の見地

から「修正」の必要を説くものがあつたが、正祖元年（一七七七）十月に至って「修正」が實施された。修正の理由としては、上の景宗實録の「撰者は、みな凶逆の徒であり、記すところは黒と白と嘘を易え、義理倒置してゐる」という。修正實録は正祖五年（一七八一）七月に出來上つた。五卷、三冊。

〔五〕 兩實録の現存するものは、江華本・太白山本・赤裳山本の三部で、いずれも同一の活字印刷本である。板匡、縦四〇・五糧、横二三・五糧、每半葉十五行、行三十字。

〔六〕 昭和七年（一九三二）の京城帝國大學法文學部景印本は、太白山本に據り、それを約二分の一に縮刷したものである。但し製冊は舊のまま和裝七冊および三冊とした。

〔七〕 いまここに刊行する普及版李朝實録第四十三冊の中の兩實録は、財團法人東洋文庫所藏の京城大學景印本に據り、それをさらに縮寫して原本の四頁を一頁におさめたものである。

昭和四十年四月

學習院東洋文化研究所

末 松 保 和

景宗實錄目錄

卷一

庚子卽位年

(一七二〇) 六月(丙申朔)

..... 一

七月丙寅朔

..... 四

八月乙未朔

..... 八

九月乙丑朔

..... 二二

十月甲午朔

..... 四

十一月甲子朔

..... 二五

十二月癸巳朔

..... 一九

卷三

辛丑元年

(二七二二)

正月癸亥朔

..... 三三

二月壬辰朔

..... 四

三月壬戌朔

..... 二六

四月辛卯朔

..... 二九

五月辛酉朔

..... 三三

六月辛卯朔

..... 三六

閏六月庚申朔

..... 三九

七月庚寅朔

..... 四一

卷四

辛丑元年

卷五 辛丑元年
 八月己未朔 四五
 九月己丑朔 四九
 十月戊午朔 五三
 十一月戊子朔 六〇
 十二月丁巳朔 六一

卷六 壬寅二年 (一七二二)
 正月丁亥朔 七一
 二月丙辰朔 七六
 三月丙戌朔 七七

卷七 壬寅二年
 四月乙卯朔 八二
 五月乙酉朔 八九

卷八 壬寅二年
 六月甲寅朔 一〇九
 七月甲申朔 一一五

卷九 壬寅二年
 八月甲寅朔 一二八
 九月癸未朔 一三四
 十月癸丑朔 一三三

卷十 壬寅二年
 十一月壬午朔 一三九
 十二月壬子朔 一四七

卷十一 癸卯三年 (一七二三) 正月辛巳朔……………一五四

二月辛亥朔……………一五六

三月庚辰朔……………一六二

四月庚戌朔……………一六八

五月己卯朔……………一七一

六月戊申朔……………一七五

七月戊寅朔……………一七八

八月戊申朔……………一七九

九月丁丑朔……………一八一

十月丁未朔……………一八二

十一月丁丑朔……………一八四

十二月丙午朔……………一八六

卷十四 甲辰四年 (一七二四) 正月丙子朔……………一九〇

二月乙巳朔……………一九一

三月乙亥朔……………一九四

四月甲辰朔……………一九六

閏四月甲戌朔……………一九九

卷十五 甲辰四年

五月癸卯朔.....二〇〇

六月壬申朔.....二〇四

七月壬寅朔.....二〇五

八月辛未朔.....二〇六

誌文.....二〇八

哀册文.....二一〇

行狀.....二一一

景宗修正實錄目錄

卷一

庚子即位年

(一七二〇)

六月(丙申朔)

..... 二二五

七月丙寅朔

..... 二二七

八月(乙未朔)

..... 二二九

九月乙丑朔

..... 二二九

十月甲午朔

..... 二三一

十一月甲子朔

..... 二三一

十二月癸巳朔

..... 二二三

卷二

辛丑元年

(一七二一)

正月癸亥朔

..... 二二六

二月壬辰朔

..... 二二六

三月壬戌朔

..... 二二六

四月辛卯朔

..... 二二六

五月辛酉朔

..... 二二七

六月辛卯朔

..... 二二九

閏六月(庚申朔)

..... 二三〇

七月庚寅朔

..... 二三一

卷三

壬寅二年

(一七三二)

八月己未朔	一三三
九月己丑朔	一三四
十月戊午朔	一三四
十一月(戊子朔)	一三九
十二月丁巳朔	一四〇
正月丁亥朔	一四五
二月丙辰朔	一四六
三月丙戌朔	一四六
四月乙卯朔	一四九
五月乙酉朔	一五一
六月甲寅朔	一五三
七月甲申朔	一五五
八月甲寅朔	一五六
九月癸未朔	一五七
十月癸丑朔	一六九
十一月壬午朔	一七一
十二月壬子朔	一七三

卷四

癸卯三年

(一七二三)

正月辛巳朔……………二七四

二月(辛亥朔)……………二七五

三月庚辰朔……………二七五

四月庚戌朔……………二七八

五月己卯朔……………二七八

六月戊申朔……………二七九

七月戊寅朔……………二八〇

八月戊申朔……………二八〇

九月丁丑朔……………二八〇

十月(丁未朔)……………二八〇

十一月(丁丑朔)……………二八〇

十二月丙午朔……………二八〇

卷五

甲辰四年

(一七二四)

正月丙子朔……………二八二

二月乙巳朔……………二八二

三月(乙亥朔)……………二八二

四月甲辰朔……………二八二

閏四月甲戌朔……………二八一

五月癸卯朔·····二八三

六月壬申朔·····二八三

七月壬寅朔·····二八三

八月辛未朔·····二八三

英祖實錄(第一)目錄

卷一	甲辰卽位年	(一七二四)	八月乙未朔	二八七
		<small>西曆</small>	九月辛丑朔	二八九
			十月辛未朔	二九七
卷二	甲辰卽位年		十一月辛丑朔	三〇五
			十二月庚午朔	三一九
卷三	乙巳元年	(一七二五)	正月庚子朔	三三七
			二月己巳朔	三五四
卷四	乙巳元年		三月己亥朔	三六六
卷五	乙巳元年		四月戊辰朔	三八二
卷六	乙巳元年		五月戊戌朔	三九九
卷七	乙巳元年		六月丁卯朔	四〇七
			七月丙申朔	四一九
			八月丙寅朔	四一九
			九月乙未朔	四二八
卷八	乙巳元年		十月乙丑朔	四四三

卷九

丙午二年

(一七二六)

十一月乙未朔.....四四九

十二月甲子朔.....四五五

正月甲午朔.....四六〇

二月甲子朔.....四六四

三月癸巳朔.....四七一

四月癸亥朔.....四七五

五月壬辰朔.....四七七

六月壬戌朔.....四八〇

七月辛卯朔.....四八三

八月庚申朔.....四八六

九月庚寅朔.....四八九

十月己未朔.....四九一

十一月己丑朔.....四九四

十二月戊午朔.....四九九

卷十一

丁未三年

(一七二七)

正月戊子朔.....五〇三

二月戊午朔.....五〇五

三月戊子朔.....五一

	閏三月丁巳朔	五二五
	四月丁亥朔	五二七
	五月丙辰朔	五三〇
	六月丙戌朔	五三三
	七月乙卯朔	五三八
	八月甲申朔	五三九
	九月甲寅朔	五四七
	十月癸未朔	五五七
	十一月癸丑朔	五六九
	十二月壬午朔	五七五
卷十二	丁未三年	
卷十三	丁未三年	
卷十四	丁未三年	

